

質問	回答		
	株式会社理研キッズ	株式会社明日香	シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社
学校や地域との関わりについて	学校との情報共有は非常に大切だと考えている。日頃から情報を共有することで、トラブルを未然に防げるような対策を講じている。コーディネーターや地域に根ざしたスタッフを通して地域と繋がり、地域の方々にかまくらっ子に来てもらいたい。周辺には豊かな自然や史跡など魅力的な教材があるので、施設の中に留まらず、周りの環境を行かして鎌倉らしい事業を作っていきたい。	不審者情報など、現場や学校の力だけでは難しいので地域の協力は不可欠である。地域の特例を活かした活動を通して、地域と関わりたい。騒音などが考えられるときは、事前にお知らせしている。	昨今、現場での解決が難しいいじめや、発達障害の問題が起こっている。キッズサポートチームを組み、臨床心理士や小児科と顧問契約を結び、本社からのサポートも受けている。全国の大学の先生15名とも連携を図り、アドバイスをいただいている。障害がなくても、手を出してしまったり口頭の注意が聞かない子どもがいるので、個々の特徴を捉えて好事例を作り共有していきたい。地域や民生委員の方々の協力体制が整っており、積極的に関わっていただいている。
要望・苦情・相談への対応について	現場とは別に、専用窓口を開設している。施設に直接言いづらいことは、相談窓口を利用していただく。また、課題や改善点を全施設で共有する仕組みがある。	子どもの体調など、情報過多により保護者が不安になっている場合があるので、情報を共有するようにしている。	現場の責任者から正確な内容を聞き、現場で対応する。個人や会社として対応しなければならない事案は、会社から保護者にヒアリングを行い対応する。
乳幼児の受け入れについて	学校の時間割を考慮し、見守りを怠らないようにする。スタッフには、保育事業などのノウハウを活かした研修を行う。小学生には問題ない遊具も、乳幼児には危険なことがある。年齢による危険度合いの差や、乳幼児の行動や興味の対象を知り、スタッフと一緒に考えていく。	スペースの確保に努め、上の子が下の子の面倒を見る現在の状況の延長を考えている。	入室の際はスタッフが案内して施設に入室することや、ボール遊びの時間等、環境の設定を考えていきたい。育児の相談やコミュニケーションの対応を行いたい。
研修の実施について	発達障害の研修などは、研究テーマを設け、希望に合わせて受講してもらう。大人数だと発言しづらいという意見があり、少人数の研究会という形で開催している。	今後、受けさせていこうと考えている。スタッフからも意欲的に受講したい声が上がっている。	子どもの発達に関する研修は何度でも受けたい。定期的に受講して現場に伝える。発達障害の子どもに対しては、発達障害の専門の見識を持った臨床心理士講義や、学童の環境設定の事例もある。
財務状況について	常勤は、鎌倉市で言えば統括責任者やリーダーとして活動するスタッフ、その他を非常勤スタッフとしているとしているため、非常勤に係る経費が多くなっている。	未払い費用の増加は、経理上の勘定項目変更となったためである。	中心市街地活性化事業やPFI事業などに関わっており、長期貸付金が発生している。
今後の展望について	子ども達が「かまくらっ子に行きたい」と感じ、子ども達が楽しく過ごせてプログラムが充実している施設を目指したい。かまくらっ子の方針が、保護者に理解されていないと感じるので、市と相談しながら保護者の方々へ周知していきたい。	継続した運営で安心感を与えたい。利用している子ども達や友達を通じてのお誘いやお便り、ポスターなどで日々の様子を周知していきたい。プログラムは外部の講師も考えるが、英語や書道などスタッフの特技をプログラムに還元したい。保育に特化した強みを活かし、待機児童解消や一年生の壁等、保育を通して社会に貢献・還元していきたい。	子ども達や保護者へヒアリングを実施している。外遊びの時間や季節のプログラムを充実させて欲しいという要望が多いので、増やしていきたい。また、子ども達にイベントに積極的に関わらせることで体制作りを強化していきたい。安心で安全な居場所として、保護者や地域の方が安心して預けられる場所とする。その上で、学童保育、子育てが充実することで地域の定住支援や地域活性に繋げたい。